

# 麻酔科（ペインクリニック）のご案内



麻酔科  
林 奈輔子

皆さん、初めまして。今年度から麻酔科として協和会病院に勤務させていただきます。林奈輔子（なほこ）と申します。生まれは岐阜県で、研修医時代から数年前は名古屋で勤務しておりました。2年前に阪大病院にお世話になり、麻酔・ペインクリニックについて学んで参りました。

現在はここ協和会病院で、手術室での麻酔と、ペインクリニックの外来を行っています。

今まで麻酔科としての外来がなかったため、実際どのような仕事をしているのか？というの皆さんも想像しにくいと思いますので、このたびはこのような機会をいただいたので、お話しさせていただきます。どうぞと思います。

## 手術室での麻酔



協和会病院では整形外科の手術を主体に、日々手術室で手術が行われています。その手術中の患者様の安全を守ることが麻酔科医の役目です。

手術の間は基本的には麻酔で「眠っている」状態です。その間、患者様の全身状態を安定させ、無事に手術が終えられるように全身の管理をします。手術中だけに限らず、術前は皆様の全身状態の評価をさせていただき、より安全な麻酔をかけられるよう準備をさせていただきます。また、術後におこりうる合併症や痛みをより

軽減させられるように努力しています。

手術前の皆様には、入院後あるいは外来にて問診をとらせていただくこととなりますので、皆様ご協力をお願いいたします。たとえば、以前麻酔で吐き気が強かったり、痛みが強かったり、あるいは様々な経験がある方は、その際に私にお伝えいただければと思います。

麻酔がかかっている間のことは皆様記憶にないと思いますし、何が起きているのか不安があるかもしれません。麻酔のことで疑問や聞いておきたいことなどあれば、いつでも声をかけていただければと思います。

## ペインクリニック（痛みの外来）



私は手術室での麻酔だけではなく、「痛み」に関しての悩みを相談していただけるよう、ペインクリニック外来を設けさせていただいています。痛みの原因は様々で、また、悩まれている皆様の痛みのとらえ方も様々です。そういった痛みに関することでお悩みの方は、少しでも助けになればと思っておりますので、ペインクリニック外来にお越しください。いくつか痛みの原因としてご相談を受けるものであててみたいと思います。

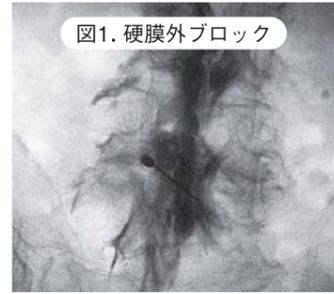


図1. 硬膜外ブロック

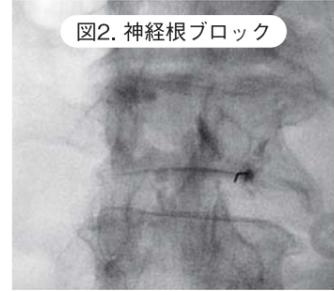


図2. 神経根ブロック

腰痛と併存して存在することが多いのが下肢痛です。原因として多いのは、整形外科的な疾患である、腰部脊柱管狭窄症や腰椎椎間板ヘルニアです。

治療方法としてブロック注射を選択する場合は、硬膜外ブロック（図1）や神経根ブロック（図2）などを症状や経過に合わせて行っていきます。必要に応じて透視の機械と造影剤を用いて原因検査や治療を行っていきます。

## 1 腰痛



日本人が一番多く悩まされているのが腰痛です。しかしながら、腰痛の8割強がレントゲンなどの画像検査では原因がわからない、いわゆる非特異的腰痛です。残りの2割弱の方は原因のわかる腰痛ということになります。

そのような幅広い特徴を持つ腰痛の中でも、いわゆるブロック注射の効果が見込めるものが存在します。診察や画像検査にて効果が見込めると判断できるものであれば、積極的に治療を行うことで痛みを軽減することが可能になります。ブロック注射だけに限らず、投薬を調整することや運動療法などを併用することで、腰痛はよりよい機転を迎えることができると考えています。

## 2 下肢痛



①～③は一部の代表例です。他にも様々な痛みで悩まれている方で、相談したい方がいらっしゃれば外来に一度足をお運び下さい。ご協力できる範囲でお力になります。

## 3 帯状疱疹に伴う痛み



また、ブロック注射が様々な事情で困難な場合でも、投薬治療を行うことで症状の軽減を目指します。

帯状疱疹は、水痘・帯状疱疹ウイルスが体の免疫力低下などにより再活性化して生じる疾患です。発生からの時間経過により、急性・亜急性・慢性（帯状疱疹後神経痛）の経過をたどります。

それぞれ痛みに対する治療方法が少しづつ異なりますが、慢性化すると難治性の痛みになることが多いです。そのため、慢性化するリスクのある、①高齢者 ②皮疹に先行する痛み ③感覚異常 ④免疫機能低下、の方は、急性期の段階で積極的な疼痛治療への介入が必要だといわれています。

## 地域包括ケア病棟 開設のお知らせ

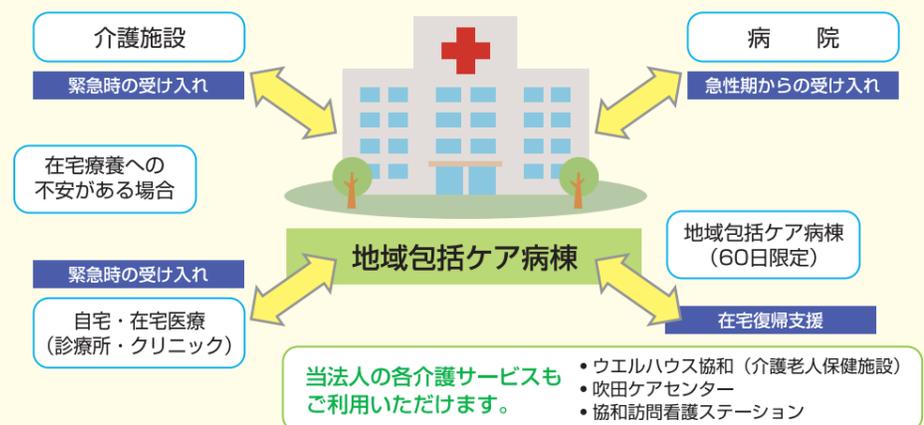
平成28年8月1日より 当院では、急性期治療後の在宅医療に向けた医療や支援を行うため、2階「療養病棟」38床を「地域包括ケア病棟」へと変更・開設しました。

### 【地域包括ケア病棟とは】

入院時点から、在宅・施設療養主治医看護師、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャルワーカー等が協力して、患者様の在宅復帰に向けた相談、退院支援、退院後のケアについてサポートさせていただきます。

【入院期間】 病床機能上、入院期間は地域包括ケア病棟に入棟後、**最長60日が限度**となります。

### 【入院から退院までのイメージ】



【留意点】 急性期病棟で行うような高額な医薬品・特殊な検査、手術などには対応できません。主治医が急性期治療を必要と判断した場合、急性期病棟へ移動していただきます。

## 新入ドクター紹介

### 中村 千嘉子

専門科 内科  
出身地 京都府  
趣味 スポーツ観戦、宝塚歌劇の観劇

### 患者さんへ一言

7月から回復期リハビリテーション科に勤務しています。この科では病気が（主に脳血管疾患や整形外科疾患）で弱ってしまった機能、体力、気力を少しでも回復できるよう、そして退院後の生活への橋渡しをしています。

原因となった病気の管理を行いながら、病院の各専門部署と共に患者さんやご家族の力になれる様努めたいと考えています。共にハードルを乗り越えて行きましょう。

### 辻本 貴志

専門科 整形外科 (股関節・膝関節外科)  
出身地 大阪府 堺市  
趣味 ゴルフ、お酒

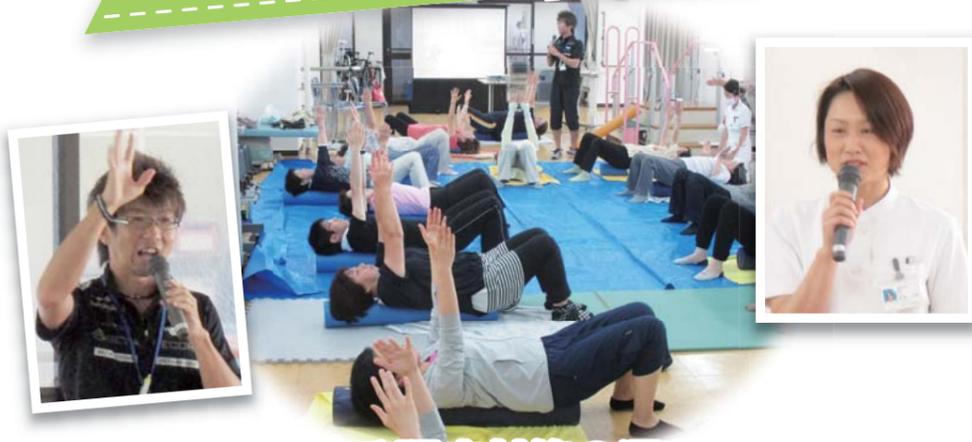
### 患者さんへ一言

骨折や外傷など整形外科の一般的な疾患に加えて、とくに股関節、膝関節外科を専門にしております。元気なお年寄りの方が増えてきている今、ひとりひとりに最適な医療を提供できるよう日々心がけております。

医学の進歩によって高齢だからといって関節の痛みをガマンする時代はなくなってきています。どんなことでも結構です。関節の痛みにお悩みの方はお気軽にご相談ください。

# 『腰痛について』をテーマにした

## “健康講座”を終えて



### ～お勧めする腰痛対策の運動療法～

去る6月18日(土)14時～15時、理学療法科において『腰椎について』をテーマに健康講座が開催されました。今回は、整形外科の前田ゆき先生に腰痛の治療法についてご解説して頂き、その後は健康運動指導士の澤田浩幸先生による実技を中心の講義を開催致しました。腰痛は、一生のうちで経験しない人は殆どいないと言われていいます。その腰痛の改善には、薬物療法、ブロック(注射)、運動療法などの治療法があります。今回はその中の運動療法による腰痛対策法をご紹介します。

まず、運動療法では筋力強化が必要です。最近「体幹筋トレーニング」という言葉を耳にすることがありますが、「体幹筋」とは体を支える筋肉のことを言います。背骨と骨盤に直接くっついている筋肉の事を指します。「インナーマッスル」とか「コアマッスル」とも呼ばれていますが、代表的な体幹筋は背骨からぐるっとお腹を回っている腹横筋、背中側で背骨と骨盤が適切な関係を保ち、それが腰痛を軽減させたり腰痛の再発防止に役立つことが判ってきました。

それでは実際、どのような運動を行うと効果的なのでしょうか？澤田先生の指導の元で少し長めの円形ポール&ハーフポールを用いた実技訓練を体験させて頂きました。汗だくになりながら最後まで真剣にチャレンジされている方々も数多くおられ、非常に活気のある健康講座となりました。

また、健康講座を終えてのアンケートでは、腰痛・肩こりの解消法などをテーマにした健康講座を次回は希望される方々も多くおられたことから継続して開催して行くことも視野に入れていきたいと考えております。  
《教育委員会》

### 健康まめ知識

#### 『熱中症から身を守る!』

毎年夏になると耳にする「熱中症」。温暖化によって年々深刻化しており、正しい知識をみにつけて対策しておくことが何より大切です。



#### Q1 どんな症状が起こるの？

**A** めまい、頭痛、吐き気、脱力、気分が悪くなる、体温が高くなる、多量の発汗(または汗が出なくなる)、筋肉がつる等が挙げられます。重症になると意識がもうろうとなることもあります。

#### Q2 予防策はありますか？

**A** 一言でいえば、暑い環境を避けることです。とはいえ日常生活を送る上では難しいでしょうから、帽子や日傘などを活用し、直射日光を避けて下さい。運動する場合は、水分・塩分補給のための休憩は欠かせません。室内にいる場合も扇風機やエアコンを使って部屋の温度・湿度を調整しましょう。基本的なことですが体調管理が第一です。睡眠時間を十分に確保し、栄養のあるものをバランス良くとるようにしましょう。《広報誌委員会》



## なごみの会を開催しました!! (患者・家族の会)

回復期リハビリテーション病棟課長 津村 輝恵

去る7月2日(土)14:00～16:00に、当病棟を退院された患者様・ご家族様を対象に、「なごみの会」を病棟のロビーで開催しました。

暑期中、10名の方が来院されましたので、歯科医師の「お口の健康」についての講義の後は、入院中の思い出や退院後の生活や介護についてそれぞれの思いを語っていただきました。ご家族からも「ゆっくり話を聞いてもらえてすっきりした」「またこのような機会を作ってほしい」等の感想をいただき、退院後もつながりがもてる交流会として今後も「なごみの会」を継続していきたいと思いをしました。

## 2016年、看護フェアを終えて

21世紀の高齢者社会を支えていくためには、看護の心、ケアの心、助け合いの心を我々一人一人が分かち合うことが必要です。ちなみに厚生労働省は、1990年の5月12日(ナイチンゲールの誕生日)を「看護の日」と制定致しました。

と言うわけで当院においても数年前より毎年5月12日に看護フェアを開催しております。今年度も例年同様に健康相談や血圧・体脂肪測定・骨密度測定・栄養士による栄養相談や薬剤師による服薬相談、リハビリの体操など健康を身近に感じてもらうような催しを企画致しました。

当日は、病院の1階フロア正面玄関付近を利用して看護部のみならず他職種メンバーも加わり、活気のある看護フェアを終えることが出来ました。例年一番人気の骨密度測定においては、直前に最新超音波型CM300を購入したことで簡単なコメント評価も紙面に出来るように進歩致しました。



また、今回は初の試みとして認定看護師による『認知症』に関する講義も取り入れました。来年度も是非ご参加下さい。お待ちしております。

《実行委員会》

## 『退院支援看護師』の紹介



2階病棟リーダー 鈴木 奈穂

2階の療養病棟は、8月から「地域包括ケア病棟」に変更になりますが、私は4月に「退院支援看護師」の任命を受け、活動開始しました。

高齢化が進む中、継続して医療や看護・介護が提供できるように、入院した早期から患者様やご家族の悩みや不安を知り、退院後の療養先の決定を支援したり、地域の多職種の方々との連携を図りながら安心・安全に在宅生活が送れるよう環境を整えていきます。またご自宅を訪問して、退院後の生活もサポートしていきます。どうぞよろしくお願い致します。

### 協和会病院ご案内

医療法人協和会 協和会病院 吹田市岸部北1丁目24番1号 (代)06-6339-3455

- 理事長/北川 透
- 院長/増田 公人
- 開院年月日/1988年(S63)3月
- 診療科目/内科、消化器科、循環器科、糖尿病内科、整形外科、リウマチ科、脳神経外科、泌尿器科、神経内科、皮膚科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科
- 診療時間/午前診 9:00～12:00(月曜日～土曜日) 午後診 13:00～15:00(月曜日・水曜日・木曜日)

※救急医療については、24時間お受けしております。

### 病院理念

## 知・技・心

専門的な知識と技術の向上を図り 心をこめて安心の医療を提供します

### 基本方針

1. 「患者様中心」を常に心がけ、満足な医療を提供します
1. 患者様の人権を尊重し、公平な医療を提供します
1. 急性期から慢性期まで、地域と連携した医療を提供します
1. チーム医療を推進し、質の高い医療を提供します
1. 人員・設備・環境を整え、安心で安全な医療を提供します

医療法人協和会 協和会病院 2012.4.1

### 編集後記

ちょうど今頃が二十四節気では、立秋(8月8日頃)、夏至(げし)と秋分の中間、旧暦では秋の始まりにあたります。しかしながら、毎晩寝苦しい蒸し暑い日が続いており、夏バテ解消対策が必要な季節感の方がピッタリ致します。今回の夏号では、今年度ご入職された医局の先生方に原稿を依頼し、一面を飾って頂きました。二面については、病院スタッフが患者様・ご家族様・地域の方々と取り組んでいる活動を中心に掲載させて頂きました。次号については、11月頃の発刊を予定しております 《広報誌委員長 北村博司》